



楷

第三十七号

岡山大学
 附属図書館報
 OKAYAMA UNIVERSITY
 LIBRARY BULLETIN

KAI
 No.37
 2003
 OCTOBER

< 写真 >

さんはち
 三七草ニ似タリ秋花開
 菊花ノシンニ似タリ色
 黄ナリ

「備前備中国之内領内産物絵図帳」より（岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵）

- 目次 -

大学附属図書館の機能（附属図書館長）	p.2
失われていく「図書貸出カード」への小さな思い （大学院自然科学研究科生物圏システム科学専攻 奥山清美）	p.4
私と図書館（資料運用係 大園隼彦）	p.5
池田家文庫絵図デジタル化における地域行政機関との連携（電子情報係）	p.6
学外者への図書館利用に関するオリエンテーションの実施（参考調査係）	p.8
マスカット	p.9
池田家文庫等貴重資料展、自動貸出機、電子ジャーナル購入についての調査、ほか 会議・研修・編集委員から	p.12

大学附属図書館の機能

井上 一

附属図書館の機能は大学の頭脳・心臓だ

今年も6月25、26日に国立大学図書館協議会が開催された。どの大学も附属図書館の課題として、学術情報流通基盤の充実、特に学内の教育・研究上の要請、生涯学習社会の知的好奇心にどうサービスを展開していくのかに苦慮している。これに対し文部科学省も「学術情報の発信に向けた図書館機能改善連絡会」を設置し（平成14年5月）電子図書館に係わる予算措置を行い、その充実を企ててきている。また、ライフサイエンス分野などの充実のためにここ2年間各大学に予算的裏付けも行われてきた。しかし、当館では来年から大きく増大する契約料を支払わなければ、従来のサービスも中止せざるを得ない状況に陥っている。中でも電子ジャーナル化に対する各大学の取り組み如何によって、情報格差 digital divide が大きく広がっていくという深刻な問題を抱えている。岡山大学の場合、サイエンスダイレクト利用実績を見ても旧六レベルで比較して、他大学の1/2~1/3と極端に低い（『Library Refresh』特別号、September 1, 2003「情報格差 Digital Divide」参照）。附属図書館がこうした情報サービスに力を発揮出来なければ（頭脳となり、心臓とならなければ）、研究的大学にはなり得ない。現在のような情報化の時代に情報を制し得ないと大学としては国際的発信など出来得ない。ましてや研究者ばかりでなく、留学生もこんなサービスの悪さでは優秀な人は来学してこないのではないか。

何故岡山大学の学術情報利用率が低いのか

最も大きな要因はサイエンスダイレクトの契約数が低いためである。ちなみに他大学で全タイトルとしているところは1441タイトルで、岡山大学では395タイトル（平成15年）である。これでは学生・研究者がアクセスしようにも大きな限界がある。少なくとも大方の旧六ラインが契約している1441タイトルへもっていかないと、大きく情報格差は広がる。これには後述するように大型の予算措置を講ずる以外に方法がない。

さらには平成15年までの契約は更新を迎えており、値上げと冊子体購読の確約を求められている。その1441タイトルを確保していくためには、約1700万円の予算的裏付けが必須となる。また、平成16年以後も徐々に値上がりを見ることは避け得ないであろう。

解決の道はあるのか

岡山大学の附属図書館予算は図1の左にみるように、運営費は大学全体の予算から、電子ジャーナルや冊子媒体などは各部局予算から収集して、資料費として組み立てられている。これだと各部局の意見も違い、利用度も異なることから全体的なサービス機構の設立は不可能といえる。少なくとも、右に示すスタンフォード大のごとく図書館予算は一括して大学全体の予算から配分されるべきである。

独法化後、岡山大学附属図書館が学生に快適な学習環境の提供、研究者に迅速なネットワーク資源を提供する環境の整備、地域に密着した図書館サービスを目指すためには、スタンフォード大型で運営されるべきである。各教職員のご賢察をお願いしたい。

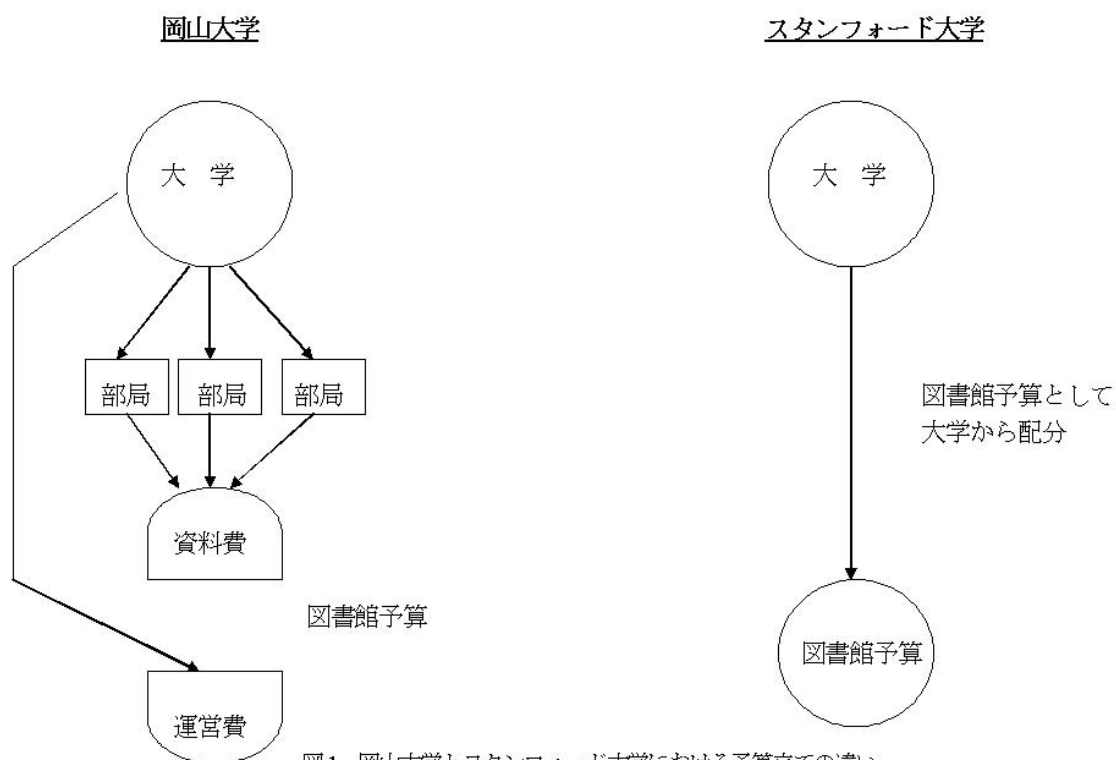


図1 岡山大学とスタンフォード大学における予算立ての違い

学術情報の検索と活用 図書館を利用する

21世紀における学術情報の収集と検索その活用は、グローバル化と速度性において、インターネット上で競わざるを得ない。将来的には情報サービス・コンテンツ作成における図書館機能と、インフラ整備・研究開発における総合情報処理センター機能は統合されて、総合情報基盤センター(仮称)的なものに融合していくものであろう。

しかしながら、大学附属図書館としての主たる機能は学術情報の適切な提供と利用に向かって動いていく。もちろん、地域連携や生涯教育の観点から、県・市図書館との連携ばかりでなく、国内・外の利用者へ開かれた機能が求められる。

(いのうえ・はじめ 附属図書館長)

失われていく「図書貸出カード」への小さな想い

奥山清美

最近では電車に乗るときも、飛行機に乗るときもチケットを読み取り機に通すだけ。高速道路ではETC、ノンストップで渋滞緩和。買い物前の預金の引き出しもATMで簡単だし、喉が乾けば自動販売機でビールが買える。私たちの回りには自動機があふれています。そしてその時代の流れはとうとうここ図書館にもやってきました。今年から図書自動貸出機が導入されたのです。今までのようにカウンターでカードを渡して貸出処理をする代わりに、自分でカードを自動貸出機に挿入し、借りたい本を登録するだけでよくなりました。貸出作業の煩わしさがなくなり、簡単に素早く、さらに便利になったはず、です。喜ばしいことです。しかし、その一方で何故かもの寂しさを感じてしまうのはなぜでしょうか。機械相手の単調な動作に無味を感じるのでしょうか。それもあるでしょう。しかし、きっと「図書貸出カード」の利用が無くなってしまうのが一番の理由なのでしょう。

「図書貸出カード」にはその書籍の歴史が刻まれています。何年前に、時には何十年前にその書籍を手にとり、ページを開いた人たちの名前が列挙されているのです。以前私はこの「図書貸出カード」の中に尊敬する人の名前を見つけたことがあります。時間を越えた接点を見つけた驚きと同時に、その人も今の私と同じように、その本を開き、ノートを取り、勉強していた姿を想像したあの時の感激は今でも忘れられません。今はインターネットを開いて、OPACを使えば、欲しい本がどこに在るのか、貸出中か、返却予定はいつかなど、欲しい情報が瞬時に手に入れることができます。しかし、まだ「貸出カード」を使っていたときには、引き出しを開けて一枚一枚探さなくてはなりません。多くの時間を要したでしょうが、その最中に心に残る本、研究に大いに有用な一冊に遭遇したかもしれません。また、カードのホルダーに「皆さん、読書の前後によく手を洗い、指をなめずにページをひらき、表紙を巻き返さず、書き込みや折り目もつけずに、いつも気持ちよく読みましょう。」などと書かれているのを見かけます。最近では指をなめてページをめくる人を見かけることもありませんし、指をなめてめくろうものなら背中から「えっー信じらんない。きしょいー」という言葉が聞こえそうです。昔は指をなめなめページを読み進めていく人が多かったのが想像されます。

人件費の削減に加え、プライバシーが以前に増して重要視されている昨今こんな「図書貸出カード」は消えていく運命なのでしょうが、それが残念で仕方がありません。スローライフを推奨する訳でもないし、機械化に抗うつもりは毛頭ありません。ただ「貸出カード」の一枚の小さな紙の中にセピア色に彩られたその本の長い年月を感じざるを得ず、それが失われていくのにただただ寂しさを感じるのです。便利さにすっかり慣れてしまい、今日も自動機を利用してしまおう一方でこんなノスタルジックな想いが脳裏をよぎってしまうのです。

(おくやま・きよみ 大学院自然科学研究科 生物圏システム科学専攻)

私と図書館

大園隼彦

子どもの頃考えていた自分の将来の職業はなんだったか。幼稚園のときは、ラグビー選手になりたいと言って母親に反対されたことを覚えている。小学・中学のときは何になりたかったか、よく覚えていない。高校のときは将来の自分などまったく考えていなかったと思う。少なくとも司書になりたいとは微塵も考えていなかった。もちろん、司書の仕事などまったく興味もなかった。それがなぜ今、岡山大学附属図書館で働いているのか、人生とはわからないものだと思う。

自分の持っていた司書のイメージは、申し訳ないが、“ただ読書が好きで暇さえあれば読書をしている暗い人、”という偏見に満ちたものだった。自分は読書などほとんどしなかったし、中学・高校と進んで図書室に行った記憶などまったくない。太陽の下で汗ばかりかいていた。記憶に残っている本といえば、吉川英治の三国志くらいだ。それが現在は毎日毎日、日のあたらぬ環境で真っ白い肌をして、汗をかいて働いている。わからないものだ。

こんな自分がなぜ大学図書館で働く運命になったか。答えは簡単かつ明瞭。今は無き、“親愛なる”図書館情報大学に進学したからだ。ではなぜそこに進学したのか。将来司書になりたかったからではないのか、否。動機は実に不純。受験科目が少なく楽だったからだ。こうして振り返ってみると、本当に自分は何も考えていなかったなと思う。長期的なビジョンがまったくない。しかし、それが却ってよかったのかもしれない。現在の就職難の時代にうまいこと職を手に入れている。

このように書いていると、自分は図書館が嫌いで現状にも不満足と思われるかもしれない。しかし、どうかそのようにとらないでいただきたい。“親愛なる”と前述したように、現在の自分は本を、読書を、図書館を大切に思っている。間違いなく。何がそうさせたのか、よくわからない。しかし、図書館学専門の特殊な大学生活4年間、そして特に岡山大学に就職してからの職員の方のご指導が大きいと思う。

幼稚園・小学・中学のころの自分に“お前は将来、司書になる”と教えたら、おそらくひどくがっかりすると思う。夢多い時期なので。高校のときの自分だったら“それもいいか”と思うだろう。楽することしか考えていなかった。大学の自分は、といっても最近の話だが、司書を目指していたので言うまでもない。

そして就職した今、本当によかったなと思う。アカデミックな雰囲気、そしてあらゆる分野の莫大な量の資料があり、すばらしい環境に恵まれている。知的好奇心もそそられ、最近は“趣味は読書”というくらい本を読むようになった。この知的好奇心を常に持ち続け、自分を磨き、図書館の利用者、職場の皆さん、そして愛する図書館のためにこれからもがんばっていこうと思う。

(おおその・はやひこ 附属図書館資料運用係)

池田家文庫絵図デジタル化における地域行政機関との連携

電子情報係

1. はじめに

岡山大学附属図書館は、平成14年度に、岡山県総合文化センターや岡山市と共同で、本学に所蔵する貴重資料コレクション「池田家文庫」の中に含まれる絵図類約300点のデジタル化の共同作業を行いましたので、大学図書館と自治体との地域連携の事例として紹介します。

これまでの貴重資料のデジタル化というのは、一つの大学や自治体組織のみで電子化を行い、デジタルコンテンツ（ホームページ）を作成して公開を行ってきました。本学図書館が、岡山県や岡山市と共同でデジタル化を行った背景には、本学図書館で所蔵している池田家文庫が、日本国民共有の文化財であると共に、岡山の歴史・文化・人に関する豊富な情報がつまった第一級の学習資源であることを踏まえ、広く岡山県民だけでなく、多くの利用者に活用してもらうことが大切だという認識があります。絵図のデジタル化は多額の経費が必要なプロジェクトですので、今後の学習資源・生涯学習の教材として活用できるように、高品質なデータ作成と細かなところまで見るためのシステムが必要と考え行いました。

2. 絵図資料について

池田家文庫に含まれる絵図類には、どのような資料があるかについて紹介しましょう。本学では、池田家文庫の絵図を、内容別に13種類に分類しています。例えば、国内の地勢や地名を記述した地図、岡山城下や江戸などの住宅地図、岡山城内外の建物を詳細に示した建築図、干拓などの土木工事の設計図や竣工図、日本各地の街道地図や瀬戸内海の航路図、日本地図や世界地図などです。このように池田家文庫の絵図には、江戸時代の岡山・日本を知る手がかりが数多くあると言えます。それ故に、絵図をデジタル化するという事は、次のような価値があると言えるでしょう。

現物資料の劣化に対して、現時点での絵図の画像を保存でき、絵図が持つ価値の保存につながると言えます。また、現物資料を、利用のために外部に出す必要性が無くなるので、外気に触れることなく、より良い状態での保管が可能となります。利用面では、現物資料で難しいとされた、絵図中の細かな部分の閲覧や検索も、ネットワークを介して、離れた場所から誰でも利用できる点は、学術及び教育、地域とのつながりの面で大きく貢献できると考えています。

3. 絵図デジタル化について

平成8年度からはじめた池田家文庫絵図のデジタル化は、平成11年度までは科学研究費（広領域）の補助金を受けて実施してきました。平成14年度までに、全2700点のうち、2200点を終えています。平成14年度は、岡山県や岡山市と共同作成を行ったので、科学研究費（広領域）以外に、岡山県や岡山市の財政的な支援もあり、県予算で217点、市予算で31点を作成しました。

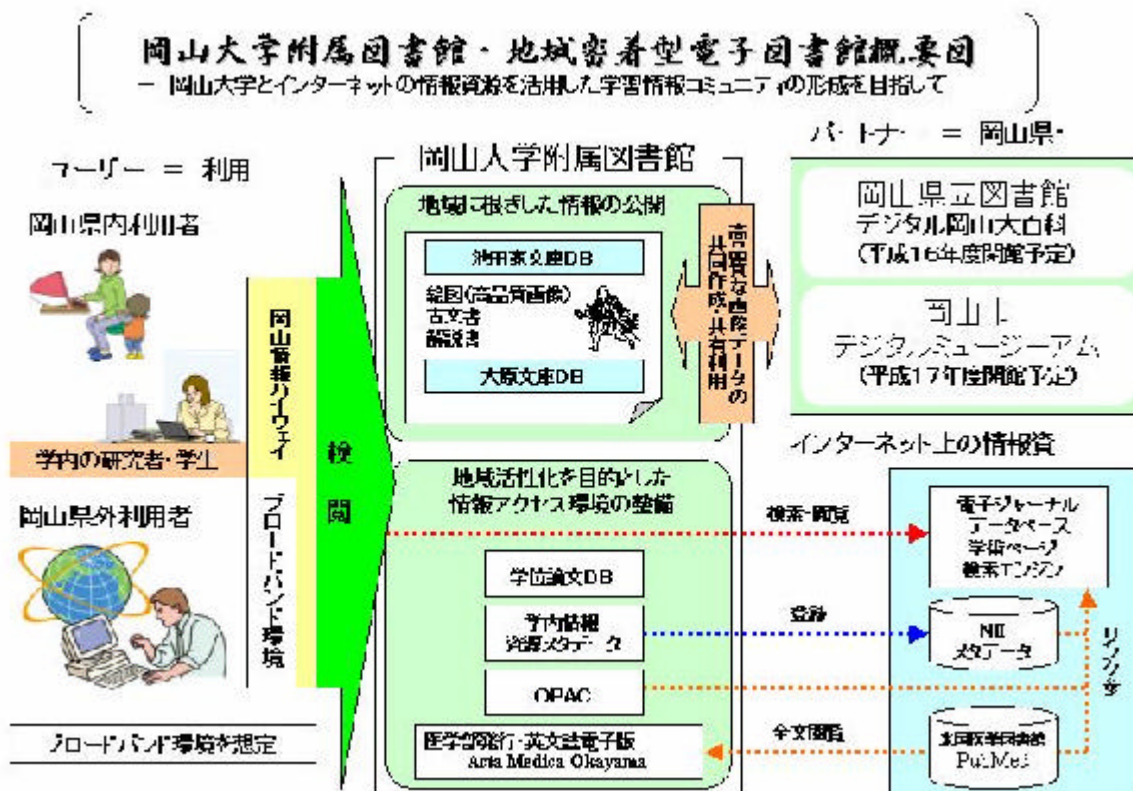
デジタル化の作業は、県や市担当者とも話し合いを行い、平成11年度に本学図書館で行ったデジタル化の仕様書を基準に、作業を行うことで実施しました。主な流れは、現物資料の調査、撮影分割数の算定、撮影リストの作成までを大学側で行い、外注で現物資料の写真撮影・スキャニングと画像合成を含む絵図デジタル画像の作成で行いました。絵図の撮影には、8×10インチフィルム、4

×5インチフィルムを使用します。大型絵図や軸装巻物、1mm程度の小さな文字がある資料では、分割撮影を行い、全体図は分割した画像を合成して、全体画像を作成します。今回の共同作成でも、最大で13分割の資料があります。合成画像では、色彩や接合箇所 の正確さが非常に大切なポイントとなります。

更に、合成画像の場合、まず絵図中の最小文字と絵図の寸法から分割数とフィルムを決定します。分割撮影を行った後、個々のフィルムのスキャニングを行い、画像を合成します。合成した画像から、周辺の不要な部分を切り取って、TIFF形式でHDに保存します。画像の種類は、精細画像(TIFF)、精細画像(JPEG)、簡略画像(JPEG)の3種類を作成しており、精細画像(TIFF)が約50MB~2GBの画像でブロードバンド用の公開を目的にしているのに対して、簡略画像はナローバンド用として、100~150KBまで圧縮を行っています。

4.まとめ

平成14年度は、池田家文庫絵図のデジタル化にとって、画期的な年度となりました。岡山県総合文化センターや岡山市などの地域自治体との連携は、どのような成果や意味をもっているでしょうか。何と云っても、本連携で作成した画像の中には、岡山を知る上でなくてはならない資料が数多くあり、今後ブロードバンド環境の中で、県民やそれ以外の方に公開していく事で、地域に対して生涯学習を通じた教育的役割は大きいと言えます。今後、池田家文庫の絵図資料が、岡山県立図書館や岡山市デジタルミュージアムのデジタルコンテンツを通じて、広く活用され、いろいろな方に池田家文庫絵図や絵図からわかる情報を知ってもらうことが一番重要であると言えるでしょう。



学外者への図書館利用に関するオリエンテーションの実施

参 考 調 査 係

附属図書館では、図書資料の利活用を通して地域の人々への貢献を行っています。中央館では、平成14年度に延べ約42,000人の学外の方が利用されました。

平成14年10月からは学外の方への館外貸出をはじめました。館外貸出の登録者が100名を超えたことから、図書館の利用方法を理解していただくことを目的にオリエンテーションを実施しました。平成15年7月4日(金)・5日(土)の日程で行い、17名の方々の参加がありました。

オリエンテーションは、図書館の利用方法、インターネットを使っての蔵書検索の方法および館内案内など約1時間で行いました。参加者は、メモをとるなど熱心に説明を聞いておられ、貴重なご意見をいただきました。大学図書館を利用する第一目的は、やはり専門書が多いということでした。図書館にとっても学外利用者のニーズを把握するうえで役立ちました。

マスカット

新入生オリエンテーション(中央館)

新入生に向けて、基本的な図書館の利用方法を習得していただくためのオリエンテーションを実施しました。また、今年も第二部の学生向けに、夜間のオリエンテーションも実施しました。

実施日程：4月9日(水)～6月9日(木)

(当初の募集期間は5月31日まで。土・日曜日、休館日は除く)

内 容：・ 図書館の基本的な利用についての案内

・ インターネットによる学内の図書・雑誌の検索(OPACデモンストレーション)

・ 館内ツアー

実施回数：個人参加(13回)

授業・ゼミ単位(44回 うち夜間5回)

参加人数：個人参加(240人)

授業・ゼミ単位(1152人)

オリエンテーション・ガイダンス(鹿田分館)

学部等から依頼を受け、次の利用案内等を実施しました。

<4月>

医学部3年次編入生オリエンテーションにて 利用案内

医学部医学科新入生オリエンテーションにて 利用案内

医学部保健学科新入生オリエンテーションにて 利用案内

順正高等看護専門学校オリエンテーションにて 利用案内・館内ツアー

歯学部早期見学実習にて 館内ツアー

医歯学総合研究科講義にて 文献検索・利用案内

<5月>

看護学専攻2回生図書館文献検索ガイダンスにて 文献検索

オリエンテーション・ガイダンス(資源生物科学研究所分館)

大学院自然科学研究科新入生(4/9)、農学部新入生(5/12・19)に対し、史料館内の見学、図書館の利用方法についてオリエンテーションを実施しました。

池田家文庫等貴重資料展のお知らせ

図書館では、今年も展示会を開催します。テーマは「新田開発をめぐる争い - 岡山藩の新田開発(2) -」です。江戸時代に児島湾や高梁川河口付近での新田開発にあたって地域で起きた、境界や用水・漁場などをめぐる論争について、多数の絵図を中心に展示します。

開催期間は平成15年10月23日(木)～11月1日(土)の10時から16時までで、土・日曜日もおいでいただけます。また、開催期間中の10月25日(土)14時から、東京大学史料編纂所助教授の杉本史子氏による「近世の境界論争と裁判」と題した講演会も予定しています。

蔵書点検作業、自動貸出機の運用について

中央館では、8月18日から29日の臨時休館の間に、新館の資料17万冊の蔵書点検作業とバーコ

ード貼付作業を終了しました。これにより利用者はセルフで全閲覧室の図書の貸出処理を行えるようになりました。ぜひご利用ください。

資源生物科学研究所分館ホームページ開設

当館の貴重書である大原農書、漢籍文庫目録も掲載しています。(貴重書は複写不可・利用者によるカメラ撮影可・閲覧申請が必要) どうぞ研究等に御活用下さい。

URL <http://www.rib.okayama-u.ac.jp/library/index-j.htm>

平成 15 年度の教養授業科目への協力

平成 10 年度から始まった授業も今回で 6 年目となりました。前期日程の木曜日 2 限目、インターネットを使っての情報収集の仕方、雑誌記事・朝日新聞記事の検索方法、図書の所蔵調査等具体的なデータベースへのアクセスの仕方および検索方法の説明等行いました。

教官からの寄贈図書リスト

次の方々から著書を寄贈いただきました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

< 中央館 >

井口文男 [法]

人権 有信堂高文社, 2003 (323.14/1)

石島弘 [法]

課税権と課税物件の研究 信山社, 2003 (345.12/1)

江口泰生 [文]

ロシア資料の形態音韻論的研究 岡山大学文学部, 2002 (881.1/E)

大野威 [経]

リーマン生産方式の労働 : 自動車工場の参与観察にもとづいて 岡山大学経済学部, 2003 (509.6/0)

栗木契 [経]

リフレクティブ・フロー : マーケティング・コミュニケーション理論の新しい可能性 白桃書房, 2003 (675/K)

高旗正人 [教]

論集「学習する集団」の理論 西日本法規出版, 2003. (374.1/T)

田中共子 [文]

在日留学生の異文化間ソーシャル・スキル学習 岡山大学文学部, 2000 (F361.5/T)

中東靖恵 [文]

岡大生の言語生活 岡山大学文学部中東研究室, 2001 (814.4/0)

西垣鳴人 [経]

民業補完とは何か : ディレギュレーション時代の公的金融 岡山大学経済学部, 2003 (338.3/N)

三宅新三 [文]

ヴァーグナーのオペラの女性像 鳥影社, 2003 (766.1/W)

< 鹿田分館 >

小倉義郎 [名]

耳順記 小倉義郎, 2002 (490.4/OG)

Machiko Higuchi [医保]

Traditional health practices in Sri Lanka VU University Press, 2002 (498.2/HI)

新見 嘉兵衛 (部分執筆) [名]

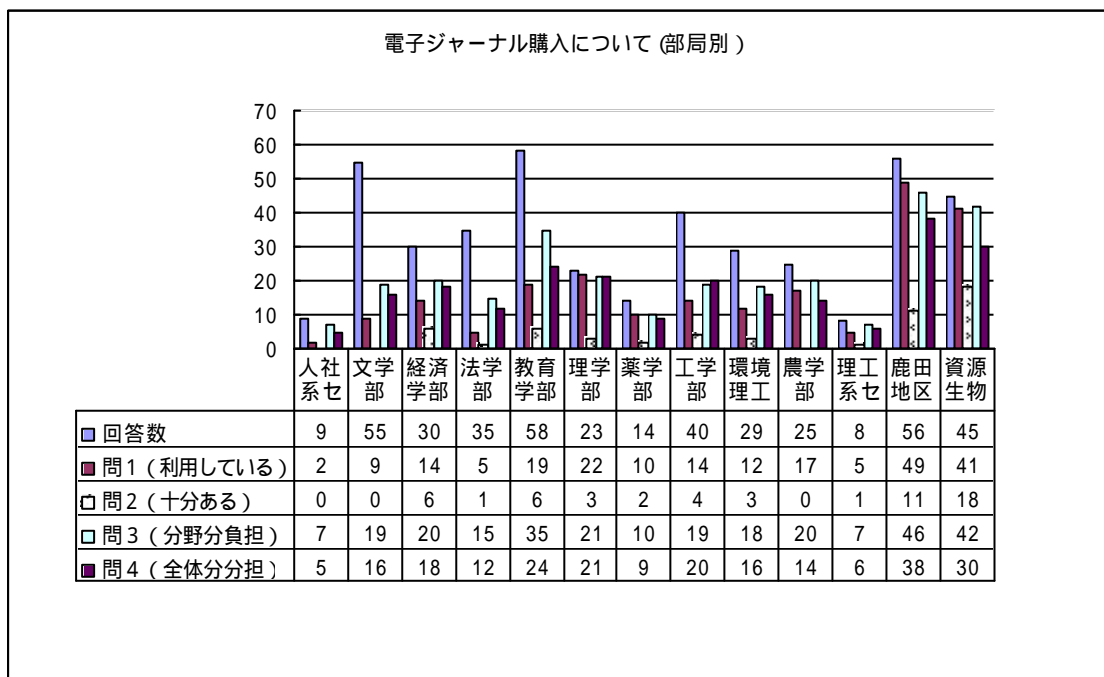
日本医学のパイオニア 1 明治に育った巨星 丸善, 2002 (490.2/NI)

(敬称略五十音順)

電子ジャーナル購入についての調査

2004 年受入雑誌調査にあわせて実施した標記アンケートの集計ができました。回答総数 427 で、「はい」の数はそれぞれ次のとおりです。ご協力ありがとうございました。

- 問 1 電子ジャーナルを利用している 219 (51%)
- 問 2 研究分野のタイトルが十分ある 55 (13%)
- 問 3 研究分野の電子ジャーナル購入のため経費負担もやむをえないと思う 279 (65%)
- 問 4 全体の教育・研究環境整備のため、研究分野に限らず、購入経費の分担をすべきだと思う 229 (54%)



会議

学外

- 15.4.17 第51回中国四国地区大学図書館協議会
総会（於 ピュアリティまきび）
- 4.18 第30回国立大学図書館協議会中国四国
地区協議会（於 ピュアリティまきび）
・国立大学法人化に向けての大学図書館
の諸課題等について、他
- 5.28 平成15年度国立大学附属図書館事務部
課長会議（於 東京医科歯科大学）
・大学図書館の当面する諸課題について、
他
- 5.28 平成15年度岡山県図書館協会第1回理事
会（於 岡山県総合文化センター）
・平成14年度事業報告、収支決算報告に
ついて、他
- 6.13 岡山県大学図書館協議会平成15年度第1
回総会（於 加計国際学术交流センター）
・平成15年研修事業について
- 6.23 平成15年度岡山県図書館協会総会（於
岡山県総合文化センター）
・平成14年度事業報告、収支決算報告に
ついて、他
- 6.25～6.26 第50回国立大学図書館協議会総会
（於 大宮ソニックシティ）
・平成15年度事業計画について、他

学内

- 15.7.11 平成15年度第1回附属図書館運営委員会

研修

- ・平成15年度（前期）岡山大学職員研修（放
送大学科目履修コース）
参加者 川上研三（4.1～7.30）
- ・平成15年度大学図書館職員長期研修
参加者 森谷めぐみ（7.7～7.25）

編集委員会から

新館長の井上教授に「大学附属図書館の機能」を寄稿していただきました。当館の外国雑誌をめぐる状況の厳しさが、率直に語られています。法人化の時代を迎え、地域へ、そして世界へと向かう学術情報の基盤をこの岡山の地に早急に作り出していかなくはなりません。我々に求められていることは多様にあり、希望とチャンスがそこかしこに見え隠れするようです。

さて10月には恒例の池田家文庫展示会が開催されます。変革の時期、ぜひ一度図書館に足をお運びいただき、岡山大学の持つ豊かな文化遺産にふれていただければと思います。新しい発想がそこから生まれてきますように……。

岡山大学附属図書館報「楳」No.37 平成15年10月1日

発行人 仲野憲一 編集 広報委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市津島中三丁目1-1 電話 086-252-1111

ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>